



～ 秋のダイナミックワールド ～  
黄の3組(年中児)で展開されている遊び

クモの巣迷路

クラスでクモを飼育したことがきっかけで始まった遊び。1学期から、いろいろな生き物になりきる“ごっこ遊び”を楽しそうにしていた子どもたち。2学期になりクモの飼育を始めると、数名の男の子たちが、クモになりきったり、クモの巣をイメージしながら迷路をつくったりして遊ぶようになりました。その姿を保育者が紹介したことで、クラスみんなの遊びに発展していきました。飼育ケースの中のクモの巣を見ながら「ここにも、ここにも糸がついているよ」「まずは枝をたくさんつくろう!」と、糸を張るための支えとなる木の枝づくりにとりかかりました。素材コーナーから段ボールの細長いポールを見つけてきて、それらを何本も組み合わせるとたくさんの枝をつくりました。「クモの巣って雨に濡れると、光が反射してキラキラ光るんだよ!」「そんなふうにつくろうよ!」という意見も出され、スズランテープを使って光が反射するクモの巣にしていきました。迷路のスタート地点、ゴール地点が誰にもわかるように看板をつくったり、迷路で遊ぶためのチケットをつくったりして、たくさんの友達が遊びにきてくれることを楽しみに準備をすすめています。



クモの巣チケットセンター

「クモの巣迷路に入るためのチケットがあったほうがおもしろい!」という子どもたちの意見で始まった遊び。子どもたちにとって身近な生き物でありながら、少し怖いイメージのあるクモ。「クモの巣をこわいと思って迷路に誰も遊びに来てくれないかも...」「赤組(年少)さんにも遊んでほしいな」と言う子どもたち。「そうだ! かわいいチケットを用意したらどう?」と、かわいいチケットづくりが始まりました。カラフルで明るい色を使ってクモを描きながら、「8本の足の色も変えてみた!」「カラフルな糸が出てきますよ」「クモの巣もいろいろな色や形にしてみたよ」と、会話も弾んでいました。おおぜいの友達がクモの巣迷路に遊びにきてくれるようにと、丁寧に描いていました。迷路に挑戦し、枝やクモの巣に引っかからずにゴールすることができた友達には、チケットの裏面に花丸を描いてあげています。



大きな木の大きなクモの巣

“クモの巣迷路”の糸にわざと絡まって遊ぶ子がいたことから生まれた遊び。

「間違えて絡まってしまった時はしょうがないけれど、みんなが絡まっていたら壊れてしまうかも」「怪我をしてしまうかもしれないし」と困った様子の子もたち。クラスみんなで話し合い、「クモの巣迷路」とは別に“絡まれるクモの巣”をつくることにしました。「枝を太くしてつくったら絡まっても壊れないのができるかも?」「登り棒をお部屋につくって糸をグルグル巻きにするのはどう?」など、様々な意見が出されました。話し合いのすえ、段ボールで大きな木をつくり、ゴムを使ってクモの糸を張ることに。クラスみんなで作っていきました。木の土台には水を入れたペットボトルを取りつけ、倒れない木にすることも成功。子どもたちは思う存分絡まって遊んでいます。



跳ばせるおもちゃ研究所

スパイダーマンに興味をもった男の子たちが始めた遊び。毎日のようにクモのことを考えていた子どもたち。ある男の子がスパイダーマンに興味をもち、スパイダーマンの真似をして遊ぶようになりました。その姿を見て、スパイダーマンを知っていた男の子たち数名が、スパイダーマンが腕から糸を出す姿を模倣できる道具をつくろうと工作を始めました。素材コーナーから見つけてきたサララップとゴムを使い、ゴムの伸縮する力を利用して糸を遠くまで飛ばすことができないかと試してみたり、乳酸菌飲料の容器の飲み口に小さなプラスチックスプーンを差し込み、スプーンをバネのようにして飛ばそうとしたりして、飛ばす力を生み出す工夫をしています。「これ、おうちにあったバネなんだけどね、ギュッと押して手をはなすとピョンってはねるんだよ!」「こんなに太いゴムを見つけたんだ!」と、家庭からいろいろな素材を持ち寄り、それらを組み合わせるとは、クモの糸を遠くまで飛ばす力をもったおもちゃづくりに励んでいます。



ゴムを使ったアクセサリーやさん

クモが糸を張る様子を観察したことから、糸に興味をもった子どもたちが始めた遊び。クモが糸を張る様子を見ながら、「糸ってどうやってできているの?」と疑問を抱いた子どもたち。身の回りには糸や紐に興味を持ち、いろいろな糸や紐を集めました。「このキラキラした糸(金色の刺繍糸)クモの糸みたいじゃない?」「毛糸がよく見ると糸がいっぱい重なってできてるんだね」「この透明の糸はママがアクセサリーをつくる時に使うんだけど、クモの糸みたいだから持ってきたよ」と、子どもたちは様々な種類の糸や紐を集めてきました。そこでレースやリボンを見つけた女の子たちが、「これでネックレスやブレスレットつくったら素敵じゃない!」と、それらを使ってアクセサリーづくりを始めました。しかし、伸び縮みしない素材(レースやリボン)でつくったアクセサリーは、可愛いけれどつけにくかったり、すぐに外れてしまったりするという問題が発生。その問題を解決するために子どもたちが見つけた素材がゴムでした。「これなら簡単につけられるし、大人でも子どもでもつけることができる!」と、子どもたちはゴムの働きを絶賛していました。看板やレジなども作り、素敵なアクセサリーやさんができました。

